



深い学び ～生成AIは「かしこい道具」の一つ～

校長 神田 朋恵

社会の急速なデジタル化に伴い、「生成AI」という言葉を耳にすることが増えました。子どもたちの学習においても、この新たな技術との関わりは避けて通れないテーマとなっています。生成AIと聞くと、少し難しく聞こえるかもしれませんが、しかし、スマートフォンで調べ物をしたり、画像を検索したりする際に、すでにその一部が活用されています。私たちの身の回りにある、いわば「かしこい道具」の一つです。

しかし、生成AIは万能な「答え」を与えてくれるものではありません。使い方を誤れば、思考停止につながったり、不確かな情報を鵜呑みにしてしまったりするリスクもあります。そこで、以下の3点が重要であると言われています。

主体的な思考 生成AIの提案を鵜呑みにせず、「なぜだろう」「もっとよい方法はないか」と自分の頭で考える力
ファクトチェック 生成された情報が正しいかどうか、複数の情報源と照らし合わせて情報の真意を確認すること
情報モラル インターネット上には不適切な情報も含まれていることを理解し、安全に利用するために、
インターネットや情報機器を適切に利用するための倫理観や態度

池谷裕二著『生成AIと脳～この二つのコラボで人生が変わる～』（扶桑社2024）には、なかなか興味深いことが記されていました。「今まで以上に人間側の努力が問われる」というのです。「生成AIを使っても、決して人生はラクにはならない。むしろ、自分の感性を磨き、生成AIの出すすばらしいアウトプットを選び抜くセンスや能力が、今後はより一層必要になってくる。」「人間側がAIの性能に見合った実力を身に付けられないかぎり、AIを有効活用することは、決してできない」

生成AIに指示を出すには、言葉が必要です。その言葉を紡ぐのは、他ならない自分自身です。言葉は、相手に伝えたいという思いから生まれます。我々教師は、これまで以上に、教科の見方・考え方を通して児童一人ひとりに自分の考えをもたせ、コミュニケーション（単なる情報共有ではなく対話や話し合い）を通じて、その考えを広げ深めさせることを大切にする必要があります。そして正解を見つけるだけでなく、最適解を求めて、主体的に自分の考えを深めていく力を育てたいと考えます。私達は子どもたちの将来を見据えながら、現在を一步一步積み重ねてまいります。

子どもたちが未来を生き抜くためには、生成AIは不可欠です。生成AIの時代だからこそ、子どもたちが“考える力”を育むことが、未来を生き抜く力につながります。御家庭でも、機会がありましたら、お子さんと話してみてください。「なぜ、そう思ったの?」「これはどうやってできたの?」「この答えは正しいかな?」会話から、子どもたちの考える力は育まれます。実りの秋、学びの秋です。

さて最後に、本稿は、どこまでが生成AI作成の文章でしょう。生成AIに本稿を入力したところ、何と！褒められました。私も自分の仕事が取って代わられないよう（?!）、今まで以上に努力を重ねてまいります。皆様、今月もどうぞよろしくお願いいたします。

（実は前半7行は生成AI作成の文章です。イラストもです。）